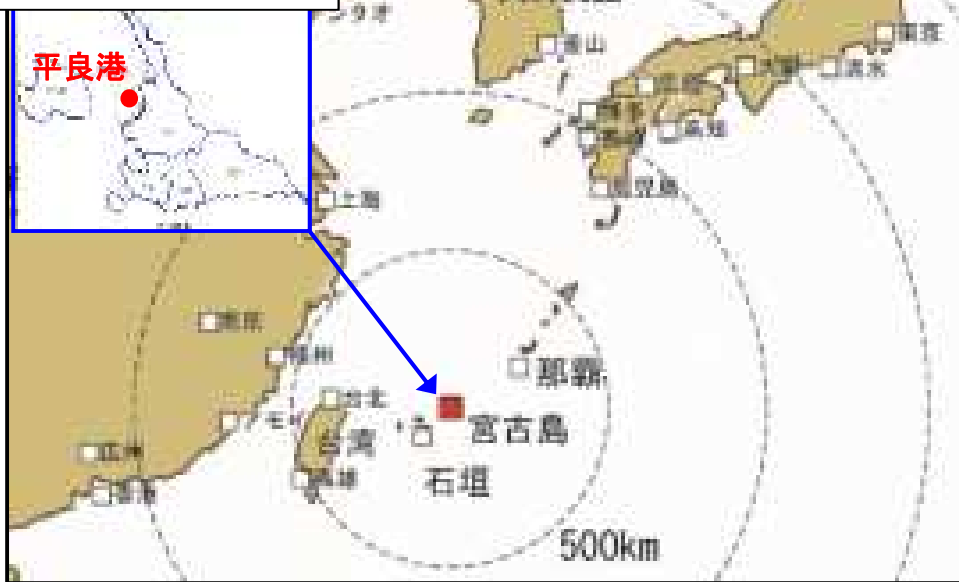


# 平良港 港湾計画 一部変更

前回改訂:平成18年2月(目標年次:平成20年代後半)

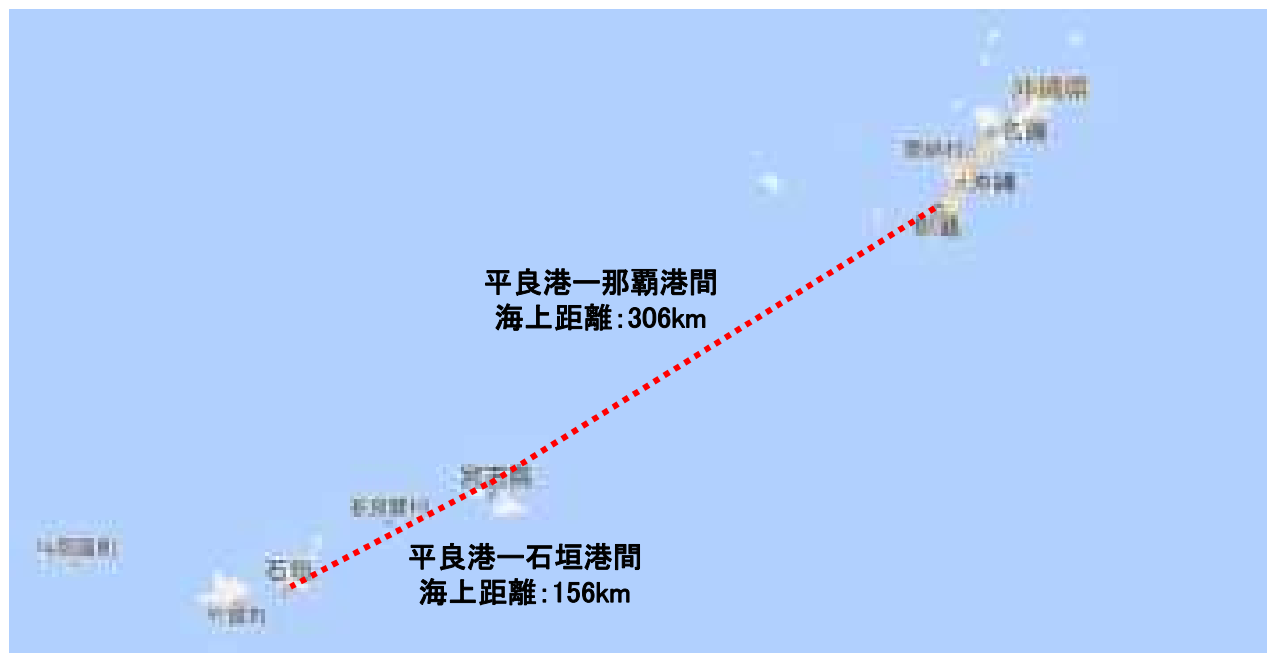
港湾管理者:宮古島市



宮古島



平成29年3月10日  
交通政策審議会  
第66回港湾分科会  
資料1-4



# 計画変更箇所と変更のポイント

## 【変更のポイント】

○クルーズ船の寄港回数の増加及び大型化に対応するため、旅客船埠頭計画等を変更する。



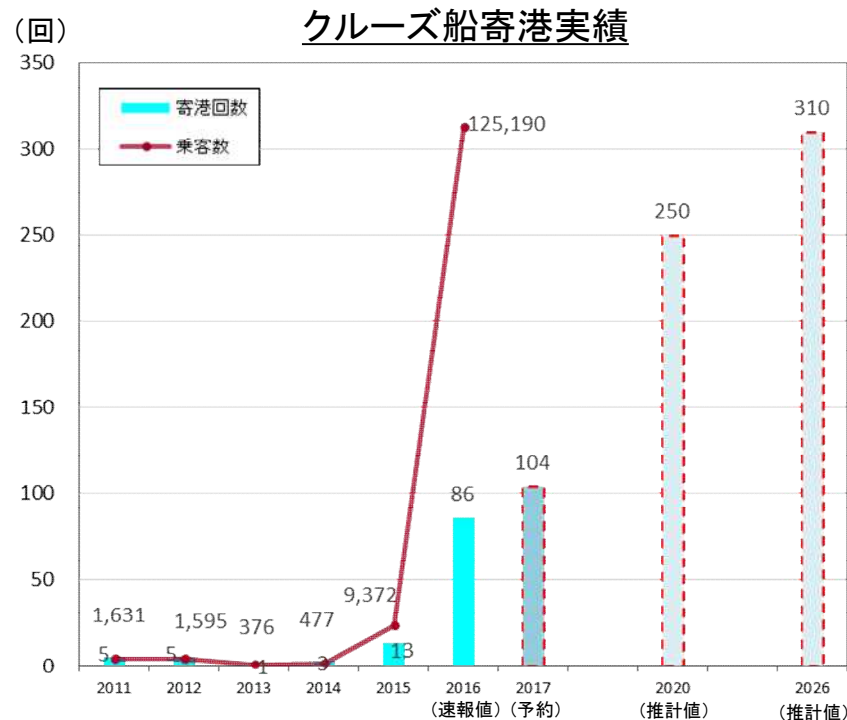
# クルーズ船受入施設の現状

- クルーズ船の寄港回数は、2015年は13回、2016年は86回(速報値)であり、近年大きく増加している。
- 現在、クルーズ船は、暫定的に下崎地区の貨物岸壁で受け入れるとともに、大型クルーズ船は、沖泊し、テンドーボートで受け入れており、上陸に時間を要するため、島内の滞在時間が短くなるなど、非効率が生じている。(2016年の沖泊は23回。約3千人の乗客の上陸に平均2時間程度を費やす。)
- 平成29年1月に、『官民連携による国際クルーズ拠点』を形成する港湾に選定された。

## 下崎地区における上陸状況



## テンドーボートによる上陸状況



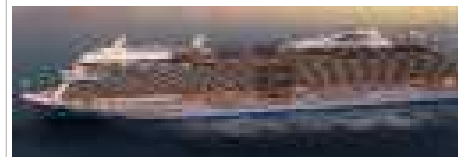
# クルーズ船の受入環境の整備

- クルーズ船の増加及び大型化に対応するため、水深10m、延長400mの岸壁を、漲水北防波堤沖側に新規に計画するとともに、漲水地区の岸壁（整備中）を水深9mから水深10mに増深する。
- 漲水北防波堤沖側に新規に計画する岸壁については、寄港見込みのある船舶のうち最大の「マジェスティックプリンセス」を、漲水地区の岸壁については、「サファイアプリンセス」を、それぞれ対象船舶とする。



## 寄港対象とするクルーズ船の船型（船長・喫水）

【漲水地区北防波堤沖側】  
Majestic Princess



全長: 330m  
 型幅: 38.4m  
 満載喫水: 8.6m  
 総トン数: 143,000トン  
 旅客定員: 3,560名  
 国内寄港: 那覇港、平良港等  
 アジア寄港: 上海港等  
 初就航: 2017年(予定)

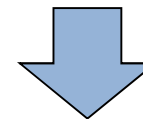
出典: 船社ヒアリング

【漲水地区】  
Sapphire Princess

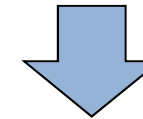


全長: 290m  
 型幅: 37.5m  
 満載喫水: 8.6m  
 総トン数: 115,875トン  
 旅客定員: 2,670名  
 国内寄港: 那覇港、平良港等  
 アジア寄港: 基隆港等  
 初就航: 2004年

出典: 船社ヒアリング、クルーズシップ・コレクション



岸壁仕様:  
 延長 400 m  
 水深 10 m



岸壁仕様:  
 延長 340 m  
 水深 10 m

確認事項	「港湾の開発、利用及び保全並びに開発保全航路の開発に関する基本方針」との適合
魅力ある交流空間の形成	<p>I 今後の港湾の進むべき方向</p> <p>4 活力のある美しい港湾空間の創造と適正な管理</p> <p>③観光や海洋性レクリエーションを核とした交流空間の形成</p> <p>観光による地域の活性化や人々の交流を支えるフェリー、旅客船、クルーズ船等の多様な要請に対応した、快適で利便性の高い交流空間を形成する。このため、地域の特性に配慮した旅客ターミナル施設や交流施設を整備する。また、まちづくりと一体となって、水際線を有する魅力ある空間を形成する。さらに、運河等を活用して水上ネットワークを活性化するとともに、地域の観光資源等を活用した水辺の賑わい空間を創出する。</p> <p>また、観光立国の推進、中国等からの訪日旅行者の増加に向けて、外国クルーズ船の日本寄港を促進するため、ポートセールス活動や旅客の利便性確保などに関係機関と連携して取り組む。(後略)</p> <p>V 港湾相互間の連携の確保</p> <p>2 各地域における港湾相互間の連携</p> <p>⑩沖縄地域</p> <p>(前略)また、異なる魅力をもつ離島が点在するという特性を活かして、クルーズ船のネットワークの充実に向けて、本島及び離島の港湾が連携して取り組む。さらに、沖縄特有の環境と共生したみなとづくりをより一層進める。(後略)</p>

# 計画変更内容(漲水地区)

○大型クルーズ船の寄港に対応するため、漲水地区の岸壁及び航路・泊地の水深を9mから10mに増深するとともに、漲水北防波堤沖側に水深10m、延長400mの岸壁及び埠頭用地0.6haを計画し、水域施設計画及び臨港交通施設計画を変更する。

